

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス事業者として、地域の中での認知症ケアへの理念をつくりあげている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は月に一度の法人内の会議に出席し、そこで得た情報などをホームのミーティングにて発表する。理念の共有化のために、ホーム全体でミーティングを行い、スーパーバイザーが出席し、ケアへの思いや考えを語り合う場としている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会を開催し、ご意見を伝えやすいようホームに意見箱を設置するなど、家族への理解には努めているが、地域の方に理念を理解してもらおう取り組みまでは行っていない。	○	グループホームのことや認知症について理解して頂けるよう、地域の方が気軽にホームと触れ合える機会を作っていきたい。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所とは挨拶をかわす程度で、まれに近所から頂き物をした場合は、御礼の品を持参して責任者が挨拶に伺っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事などの催しには極力参加している(地域のお祭りなど)。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6</p> <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ホームの機能を地域の高齢者等の暮らしに役立てる取り組みは現在行われていない。</p>	<p>○</p>	<p>運営推進会議などで地域の方々と話し合う機会を設け、地域にどのようなニーズがあるのかを把握し、ホームの機能が地域に役立てるよう取り組んでいきたい。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7</p> <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価および外部評価を受け、その後の取り組みをどう行っていくかをスタッフ間で話し合い、家族会議の場で今後の取り組みを伝え、意見があれば組み込んでいる。</p>		
<p>8</p> <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は準備段階であり、秋に開催する予定になっている。</p>		
<p>9</p> <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の健康福祉局や区の保健福祉センターの高齢者支援担当者と連絡を取り合い、入居者の生活の支援の相談を主に行っている。また、GHでの暮らしが入居者にとって負担になったときのことや、GHの先の支援について、区の保健福祉センターと相談している。</p>		
<p>10</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は権利擁護、成年後見制度についてホームとして学ぶ機会をまだ持っていない。</p>	<p>○</p>	<p>成年後見制度を検討中の入居者がいるため、担当司法書士から職員が学ぶ機会を作ることを考えている。</p>
<p>11</p> <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>具体的に、身体拘束だけでなく、言葉や態度での虐待もあるのだという事を理解し、意識として持っているが、現段階ではホームとして関連法を学ぶまでには至っていない。</p>	<p>○</p>	<p>コンプライアンスの観点から、今後は虐待防止関連法について研修の機会を持ち、入居者や家族への説明を行っていききたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>ホームの見学をお勧めし、利用者の状態把握に力をいれ、面談を重ね、不安や疑問に応えた上で契約を行っている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>利用者からの苦情や意見に関しては、職員からユニットリーダーへ、ユニットリーダーからホーム長へ報告するフローがあり、スタッフは申し送りをしている。</p>	○	ホームへの意見や不満、苦情を言える場として運営推進会議があることを利用者や家族に伝え、気軽に意見が言えるように配慮していきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>ホームのお便りを郵送する際、スタッフが個別に連絡事項や最近のご様子など書いて同封している。その他の連絡事項については電話にて対応している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>ホーム内玄関に意見箱を設置し、無記名で言いにくい不満なども気軽に書いて頂けるよう工夫している。また、家族会を開き意見を聞いている。個別に相談を受ける機会も設けている。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>月に一度のユニットミーティングにて意見を聞く機会を設けている。そこでの意見は管理者が、月に一度のホーム長会議などの法人内での会議にて運営者と相談している。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>体調不良などによる長期休暇やパートの雇用契約にある曜日規制によって土日に集中して職員が不足する事がある。場合によっては管理者がユニット業務を行う事があるが、スタッフ同士でカバーしあい、ユニットリーダー、管理者が調整を行っている。</p>	○	常勤スタッフの休暇が集中する事がある為、休暇が重ならないように調整しているが、スタッフ個々の常勤としての意識の向上を図っていきたい。さらに、ユニットごとの生活リズムをつかみ、それに応じた人員配置を行っていきたい。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>入社時からコミュニケーションをよく取る様にし、悩みや不満がないか、スタッフに問いかけていることによって、離職を最小限におさえている。</p>	○	やむをえず離職や異動があった場合には、必ず利用者や家族への報告を行って、今後の人員補充についての計画も説明していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内において、現場のリーダーを対象とした介護マネジメント研修を行った。今後は職員対象として行っていく予定。ホームとしては、技術向上の勉強会や知識の向上を目的とした研修を行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内でのネットワークづくりは行われているが、法人外において同業者との交流の場を持つことが少ない。</p>	<p>○</p> <p>管理者がGH連絡会などに出席をしたり、近隣の関係施設を訪問し、関係を構築することからはじめていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個々の働く環境に応じた雇用形態を提案している。働きやすい環境にしていくために運営マネージャーを中心とし、社内でイベントを催したり、日々コミュニケーションをとるよう努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者本人の見学を勧め、実際に雰囲気を感じ取っていたき、その上で不安なことや分らないことなどが無いかを尋ねている。</p>	<p>○</p> <p>どのように暮らしていきたいのか、求めている事をもっと言いやすい環境を作り、受け入れる姿勢を強くアピールしていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の状態で困っている事やホームの利用への不安などを、見学時や電話などでこちらから何うように努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのように困っているのか、本人の状態からGHの利用は適切なかどうかを踏まえ、必要なサービスを本人・家族と一緒に検討するよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用はしたいがなじめるかどうか不安な方へは、体験入居からお勧めし、気軽に利用していただけるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者をひとりの人生の先輩としてとらえ、生活を共にし、色々なことを共有しあいながら関係を構築するよう努めている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からのサポートもお願いし、職員は家族の立場に立って、役割を一切奪ってしまうようなことのないよう配慮し、連絡をとっている。	○	現状として、連絡がつかない家族もいるので、連絡の取り方やその媒体にいたるまで、その家族にあった伝え方や相談の行い方をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人から家族に対しての思いは伝えているが、家族からの思いを汲み取る機会をあまり設けていない。	○	家族から本人に対してどのような思いを持っているのか、差しさわりのない範囲で、個別に伺える機会を設け、現段階で本人と家族が変わりない関係を続けていけるよう、こちらからの支援策も話していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の元職場の仲間やご近所だった方など、本人と代理人の了承を得てホームへの来訪を支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士で関係が希薄である事もある。どうしても合わない部分は人間としてあって当たり前のこととして捉え、その中でどのようにお互いに嫌な思いをせずに穏やかに暮らしているのかを話し合っている。	○	入居者同士の関係性を見極め、どういった部分に働きかければよいのか、話し合い、スタッフ間で共有していけるよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>他のサービス利用時にはその機関と連携を取り、了承を得た上でこちらからの情報を関係機関へ提供している。必要時は契約終了時にもこちらから連絡をとっている。</p>	
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>希望があればその希望に沿えるようなケアの方針をたてているが、希望や意向を汲み取り、それを共有できる媒体がない。</p>	<p>○</p> <p>どのような生活を送っていきたいのか、または送っていくことが本人にとって良いのか、生活の中で見出すよう努め、または本人に確認していききたい。</p>
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ごく最近のことに関しては、ケアマネージャーや家族から聴取しているが、若い頃などになると聴取しきれていない。</p>	<p>○</p> <p>個人を理解する為に必要な情報として大切に扱うことを説明しながら、家族や親戚、本人からさまざまな生活歴を聴取し、それを書き込むシートなどを用意し、共有しながらケアに活かしていきたい。</p>
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>ケース記録や申し送りノートなどを参照し、できることや持っている力を見極め、ケアに活かしていくよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>一人ひとりのできること、どの程度支援すればできるのかなどをユニット会議で話し合い、職員同士の共有できる場として活用していきたい。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>同意を得ている家族もあるが、介護計画について十分説明できていないところもある。</p>	<p>○</p> <p>サービス担当者会議などへの出席を本人や家族へ要請したり、きちんと準備を行い、意見を反映できる介護計画の作成にあたっていききたい。</p>
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ほぼ介護計画の期間に応じた見直しをしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意見などを組み込んでケアに活かすよう努めているが、事業所全体として多機能性を活かしてきれていない。	○	職員がGHに対する思いをしっかりともち、その上で入居者個人をきちんと理解する事からはじめていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の防災マップ作りの為の相談を受けたり、警察、消防などへホームの概要を理解していただきながら、協力を仰いでいる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅サービス事業者と連絡している。 今後はさまざまなサービス事業者との話し合いの機会をもって、関係を築いていきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	下田地域ケアプラザへ出向き、挨拶を済ませた段階である。 今後、施設見学や運営推進会議に出席していただき、両施設の関係性を構築し、協働していきたい		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の説明をし、居宅療養管理指導を受けることによって、より安心な暮らしをして頂けるよう支援している。ほとんどの入居者が提携医療機関との契約を結んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を、自分がしたいときにできるよう、リズムを掴むことに努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お誘いしてお断りされたら、また別の機会に誘ってみるなど、無理強いをせず、入ろうかなと思って頂けるように、誘う方、誘う人などを変えて工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中においても、居眠りをしたり、疲れやすい方にはお昼寝を勧め、あまり寝すぎてしまって昼夜逆転しないように、スタッフ間で一人ひとりの休息時間の把握に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	麻雀やカラオケ、園芸や手芸や書道など、得意な分野を見出し、やりたいことや楽しいと思うことを行う事ができるような支援に努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失を防ぐ為に所持を控えていただいている。	○	紛失してしまう恐れがあると理解して頂いた上で、小銭などをもち、そのお金で小物を買っていくなどの支援をしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の関係や人員の状況で出来ない事もあるが、出来る限り希望に沿えるよう、まずは本人のしたい事を尋ねるようつとめている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きたいところを伺ってみたり、伝えられない方には家族に伺ってみたり生活史の中から捉えてみるなど、一人ひとりの思いの理解に努める。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方には、ホームの電話を自由に使っただいている。手紙も自由にやり取りしていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族構成上等の理由から訪問者があまりいない入居者もいるので、その配慮もしながら、家族等にも訪問を無理強いないような環境を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会をしていないので、これからの計画に入れているところである。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していないが、ユニットのドアを施錠している。家族会にて施錠していく上でのリスクと、施錠をはずした上でのリスクを説明し、当分は施錠をしていく方針となった。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	午前と午後に所在等の確認をし、ユニット日誌に記載している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品に関するリストアップや管理方法のマニュアルなどはなく、強い漂白剤などは鍵つき扉に収納している。	○	何が誰にとって危険なものなのか、というところから把握していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	万が一事故が起こってしまった場合は、再発防止の為に事故報告書に事故検討内容を記載し、それを担当ユニットのみならず他ユニットとも共有し、リスクに対する意識を高めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>訓練は一部の職員のみで、すべての職員が受けるまでには至っていない。</p>	<p>○</p> <p>消防署などと連携を深め、救命救急講習などを定期的に行っていききたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署との連携を取り、消防計画を作成し、避難ルートを作成して、ユニットに掲示している。</p>	<p>○</p> <p>避難訓練を少しずつ行いながら、最終的には総合訓練を行っていききたい。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>最近の本人の様子を伝えるときに、起こり得るリスクについて話すことはあるが、常にリスクについての話し合いの場は設けてはいない。</p>	<p>○</p> <p>ケアの方向性を説明するときに、その過程で起こり得るリスクについても説明し、その上で一緒にケアをして頂けるように定期的に話していける機会を設けたい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日血圧と体温を測定し、排泄の状態もさりげなく確認している。また、ささいな変化でも気付きがあれば申し送りをし、必要時は医師へ連絡できる体制をとっている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>かかりつけ薬剤師による服薬指導を隔週で受けているほか、薬剤を確認し、医師と連携を図りながら不必要時には薬の内服を中止するなどの対応をしている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>買い物や散歩などの目的をもって歩くことで運動をし、また、食事面では繊維質の多いものや乳製品などをメニューに組み込んでいくよう努めている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後は行っておらず、朝晩に支援している。個人に合わせて、昼間に行う事もある。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合わせた食事量の盛り付けをさりげなくみせるように行い、食事量、水分量をチェック表に記入し把握している。メニュー表の管理によって、栄養バランスをはかっているが振り返りはしていない。	○	メニュー表をもとにしながら栄養バランスの管理、見直しを行っていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいを入居者、スタッフともに励行し、面会者や見学者にもユニットへ入る際にはお願いをしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材には買った日付や賞味期限などを明記し、肉や魚類は冷凍保存を徹底している。また、まな板や三角コーナーなどは毎晩漂白を行い、清潔を保っている。	○	なべやフライパンに関しては漂白を行っていないので、定期的に行うよう組み込んでいきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲の草むしりや掃除を行い、玄関にはスリッパを目につきやすいところに設置し、客人などが自由にスリッパを手にとれるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に手作りのあたたかみのある、高齢者がなじみやすいような小物を設置している。また、共用スペースに流れる音はテレビのものであったり、なじみ深い音楽にするよう努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード面から難しい事もあるが、廊下にベンチを配置するなどして、リビングからは少し離れたところに休憩できる場所を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明器具や洗面台以外はすべて、入居者が使い慣れたものを持ち寄るよう、入居時にお願ひし、なぜその必要があるのかも説明を行っている。また、新たに物品を居室に納入する場合は、出来る限り本人を交えて物品の選択を行っていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計、湿度計を設置し、常に確認しながら適切な温度や湿度を保つようになっている。また、リビングの窓を開けたりすることによって、室内の空気を入れ替え、外気との差がなくなるよう努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	総面積がさほど広くない分、ハード面での問題もあるが、家具の配置などに気を配り、使い慣れた道具などを目につくよう配置する努力をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援のための方法として、その人の強みに目を向け、支援により混乱や失敗を起こす周辺症状を減らしていけることを話し合いの中で確認し合い、意識付けから取り組んでいる。	○	実践につなげるために、家族からの情報収集を行い、個人を中心として捉えたケアの方法をさらに学んでいき、スタッフ全員で共有していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花屋を昔経営していた入居者を主に、裏庭に茄子と大葉の苗を植えて頂き、育ててもらった事を生活の中に組み込んでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症を抱えている方々から、このグループホームに入居したいと多くの方々に思っていたいただけるようなホーム作りに力を入れていきたい。
 また、清潔であり、家庭的なホームを目指し、アピールしていきたい。